

鳥の歌・翔く形象

下村良之介 良展

1989年1月27日[金]



2月22日[水]

前期 1月27日[金]～2月8日[水]
後期 2月10日[金]～2月22日[水]

入館料

一般500円(400円)

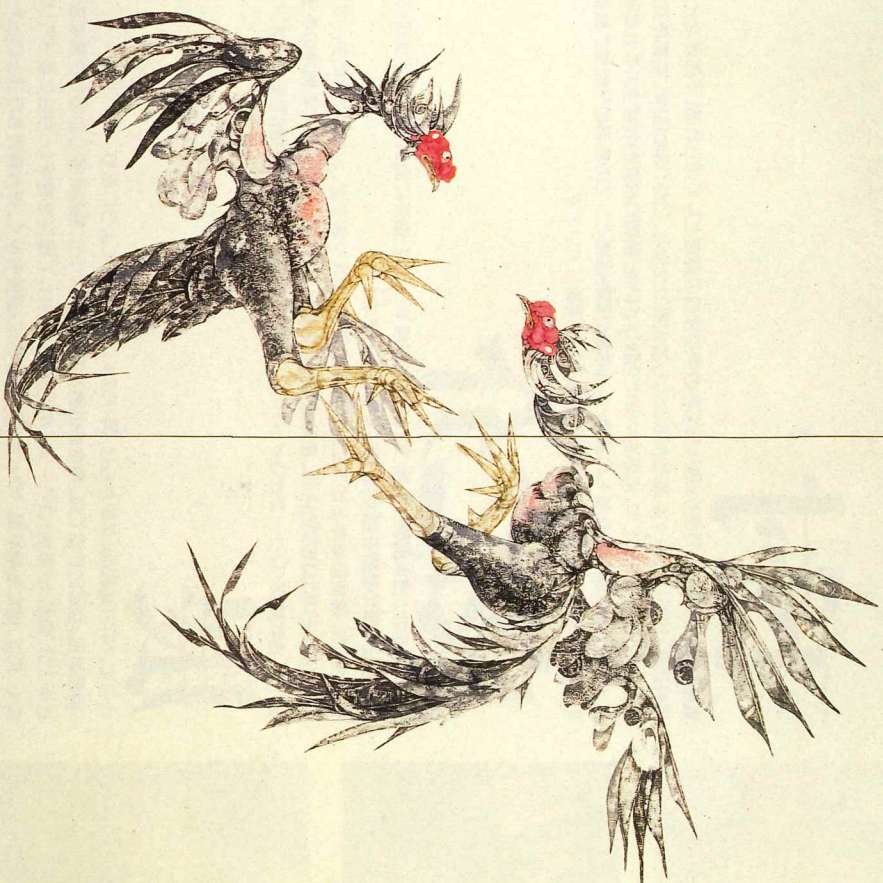
高大生300円(200円)

小・中生100円(50円)

()は20名以上の団体料金および割引入館料

休館日/毎週木曜日

開館時間/10:00AM～6:30PM/入館は6:00PMまで



闘鶏屏風(度) 1978(昭和53)年 165.0×185.0cm (二曲一巻)

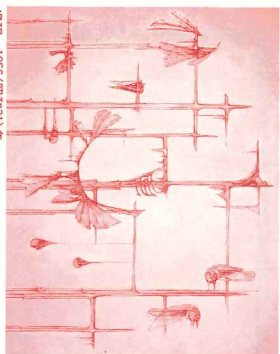
○美術館

オ一美術館

山手線大崎駅東口下車徒歩1分 大崎ニューシティ1-2号館2階 東京都品川区大崎1-6-2 大崎ニューシティ1-2号館 TEL.495-4040

講演会/1月28日(土)2:00PM～下村良之介氏

鳥の歌・翔く形象



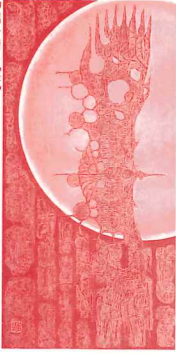
通称 1956(昭和31)年



通称 1957(昭和32)年 京都市美術館蔵



通称 1957(昭和32)年 京都市美術館蔵



通称 1988(昭和63)年

下村

戦後日本画の革新者であり、現代美術界の中で独自の存在として知られる、下村良之介氏の初めての本格的な回顧展を開催します。下村氏は、1928(大正12)年、能楽師を父として大阪で生まれ、1948(昭和18)年、京都市立絵画専門学校(現・京都市立芸術大学)を卒業。戦後には、1948(昭和24)年、京都を中心に活動していた、当時の前衛的な意志あふれる若手日本画家たちと、パンソール美術協会の結成に参加し、日本画画壇の因習的な体質への抵抗と、日本画の彫彩芸術としての表現の可能性の拡張をめざしました。その後、氏は今日まで、同会を中心とした作家として活動しています。

良之介

またその他に、日本国際美術展、現代日本美術展等に出展、国外においても、ピッツバーグ国際現代絵画彫刻展、サンパウロ・ビエンナーレ展などにそれぞれ参加し、既存の日本画の範疇を超えて、幅広く活躍してきました。

その作品は、初期にはキュビズム的な群像表現から始まりますが、しだいに鳥にテーマを集中させ、画面は線描を主体として鋭い造形感覚が漲っています。また、1959(昭和34)年頃からは、紙粘土を画面に盛り上げ、その上に彩色する独特の手法で、情念を象形文字のような有機的形態にこめはしめます。その後、古代壁画・レリーフからインパクトを得て、その作風は、より強靱でミニマルなものとなっていきます。

展

さらに、1973(昭和48)年頃からは、再び紙本に顔料で描くようになり、「闘鶏屏風」などの作品では、抽象的形態を内に含みながら、独特の張り詰めた空間を表しました。近年では、紙粘土・彩色・コラーージュ等を自由に駆使して画面を構成し、今日に至っています。また、氏は、他にも銅版画「やけもの」(焼き物の)個展も多く、舞台美術も行方といった多才ぶりをみせています。本展は、このような多彩な表現を見せながらも、一貫して鳥を主たるモチーフとして、緊張度の高い生命感を表現してきた氏の全貌を、その代表作50数点に銅版画、「やけもの」も含め展示することで、初めて明らかにするものです。

1989年1月27日(金)

→2月22日(水)

前期1月27日(金)～2月8日(水)・後期2月10日(金)～2月22日(水)・会期中、展示替を行います。



●交通
山手線大崎駅(東口)下車徒歩1分
東急バス(大井町駅⇄渋谷駅)大崎駅徒歩1分
●駐車場
美術館専用駐車場はございません。
お車でご来館の場合、「大崎ニューシティ」地下2Fの駐車場(有料)をご利用ください。